

お客様事例: チューリッヒ・インシュアランス・グループ

チューリッヒ社がハイブリッドクラウドで グローバルITインフラストラクチャを変革

お客様: チューリッヒ・インシュアランス・グループ

場所: スイス チューリッヒ

業種: 保険

課題

- グローバルレベルでのITサービスデリバリーの改善
- 従来型データセンター環境のモダナイゼーション
- アプリケーション開発の促進

ソリューション

- DXCハイパーコンバージドプライベートクラウドソリューション
- DXC Agility Platform™によるハイブリッドクラウド管理ソリューション
- DXCデータセンターサービス

成果

- ワークロードをプライベートクラウドへ移行
- コストを30%削減し、プロビジョニング時間を48時間に短縮
- DevOpsを促進して開発を効率化
- アプリケーションの将来の変化に対応できるパブリック/プライベートクラウドの導入

2004年から続く DXC Technology とのパートナーシップのもと、チューリッヒ・インシュアランス・グループは、従来型のデータセンターアウトソーシングモデルを Platform as a Service モデルへ移行し、次世代のクラウド管理テクノロジーを活用することで、運用コストの削減と開発の短期化を進めています。

従業員が 55,000 人を超える大手総合保険会社のチューリッヒは、170 以上国以上の保険契約者に幅広いサービスを提供しています。

2009 年、チューリッヒと DXC は、チューリッヒが持つ 9 か国のデータセンターと IT インフラストラクチャをサポートするグローバルアウトソーシング契約を締結しました。当時、この契約は保険業界における最大級の IT インフラストラクチャのトランスフォーメーションを目指すものとして評価されました。事実、チューリッヒと DXC は、National Outsourcing Association (NOA) の International Contract of the Year Award を 2014 年に受賞しています。

チューリッヒと DXC の関係は、両社で構成するステアリングコミッティにより管理されています。このコミッティは、チューリッヒの IT トランスフォーメーションのあらゆる側面を戦略的に管理します。最初の大きな IT プロジェクトの 1 つは、チューリッヒの EMEA (ヨーロッパ、中東、アフリカ) 地域のデータセンター、および他の各国で DXC と締結されているサービス契約に含まれる 3,000 台のサーバーを更新するというものでした。これは、2 年にわたる非常に複雑なモダナイゼーションの取り組みでした。

チューリッヒの IT インフラストラクチャのグローバル責任者であるトーマス・クロップ氏は次のように述べています。「私たちは協力して、チューリッヒの IT インフラを構成する各要素のモダナイゼーションに取り組みました。この取り組みは、大規模なトランスフォーメーションプログラムで継続されています。これまでに、このモダナイゼーションによりシステムの安定性は大きく向上し、コストが大幅に削減されました。現在 CSC (現 DXC) は、プライベートクラウドの更なるトランスフォーメーションを実現しようとしています。これは、ハイブリッドで拡張性に優れた共有 IT インフラの確立を後押しする、エキサイティングな取り組みです。」

クラウドオーケストレーションの一元管理

多くのグローバルな IT 組織と同様に、チューリッヒでは、パブリッククラウドによる Software as a Service (SaaS) の専門的な各種アプリケーションに加えて、従来型のメインフレームと x86 環境で稼動するさまざまなアプリケーションを管理しています。現在は、増え続けるこれらのアプリケーションをプライベートクラウドへ移行し、クラウドオーケストレーションのプラットフォームで一元管理しています。

チューリッヒのサービスデリバリー&インテグレーションの責任者であるクリス・ロジャズ氏は、次のように述べています。「ここ数年の当社の飛躍的な進展が、CSC (現 DXC) とのパートナーシップによって起こるイノベーションの必要性を十分に示しています。私たちは、当社にとって今でも非常に重要であるメインフレームといった従来型の要素とクラウドを両立させる必要があります。CSC (現 DXC) との契約により、私たちは従来の要素の維持とイノベーションの両立を支援してくれるパートナーを得たため、これらを他のベンダーに求める必要はありません。」

チューリッヒがこうした環境を統合できるよう支援するため、DXC は基盤となるハードウェアを可能な限り DXC Agility Platform™に置き換えました。DXC Agility Platform™は、新しい IT インフラのプロビジョニングやクラウドオーケストレーション、ガバナンス、セキュリティの設定を行う操作性に優れたツールを含むプラットフォームです。またチューリッヒは、DXC のプライベートクラウドへも移行しました。DXC のプライベートクラウドは、拡張性とセキュリティ要件を低コストで実現するソフトウェアデファインドデータセンター (SDDC) ソリューションです。

30%のコスト削減

DXC Agility Platform は、チューリッヒの新しいプライベートクラウドに接続され、その数時間後には新しいプラットフォームでのアプリケーションの稼働を開始し、30%のコスト削減を成し遂げました。また、新しいITインフラのプロビジョニングに要するリードタイムは数週間から48時間に短縮されました。

ロジャズ氏は、次のように述べています。「私たちはプロビジョニング時間の劇的な改善を目の当たりにしました。私たちが行っているのは単なる仮想サーバーのプロビジョニングではありません。その他の技術環境やアクセス管理環境に統合され、開発者の使用に適した仮想サーバーをプロビジョニングしているのです。私たちは、Infrastructure as a Service ではなく Platform as a Service を推進しています。」

DXC Agility Platform は、アプリケーションを変更しなくてもパブリッククラウド、プライベートクラウド、ハイブリッドクラウドの間でワークロードを移動できる、アプリケーションブループリント機能を備えています。この機能が、チューリッヒでの高度なインテグレーションを実現しています。

ロジャズ氏は、次のようにも述べています。「私たちは、Agility Platform を使用し、プライベートクラウド環境と x86 環境の両方でリソースをプロビジョニングしています。これは重要なことです。なぜなら、他の環境へのプライベートクラウドの統合や、環境間でのアプリケーションとワークロードの移動が、はるかに容易に実現できるからです。」

ワークロードの移植性の確保

ワークロードの移植性は重要であるとロジャズ氏は述べます。「高度にブラックボックス化されているものや、ベンダーが独自にインテグレーションを行ったソリューションには非常に気を付けています。慎重に考えないと、従来型システムの場合と同様に、クラウドソリューションに囲い込まれるおそれがあります。」

DXC Agility Platform ではITインフラのセルフサービスプロビジョニングも可能です。ITチームは、サービスカタログから必要なものを選び、プロジェクトを速やかに開始し、DevOpsを取り入れた効率的な開発サイクルを実現できます。

クロップ氏は、次のように述べています。「CSC (現 DXC) には長年にわたるクラウドの実績があり、完全に自動化されたシステムを提供してきました。この実績が、私たちのサーバーのプロビジョニング時間の短縮を実現し、DevOpsを取り入れたアプリケーション開発を可能にしています。当社のプロジェクトチームは、1つの統合されたサービスカタログの中から、調達プロセスやセキュリティプロセスなどを含めたプライベートクラウドサービスを数時間以内にオーダーすることができるのです。」

ロジャズ氏はさらに付け加えました。「適切なITインフラが適切な費用で、適切な場所にあることは重要です。Agility Platform はそれを適えてくれます。」

DXCについて

DXC Technologyは、世界トップレベルの事業変革企業として、イノベーションを通じたお客様の変革と成長をサポートいたします。CSCとHPEのエンタープライズサービス部門の合併により誕生したDXCは、その技術的な独立性、グローバルな人材力、幅広いパートナーネットワークを基盤として、民間・公共セクターを含む世界70カ国6,000近くのお客様に強力な次世代ITサービスソリューションを提供しております。DXC Technologyは、世界的に優良な企業として認められています。詳細については、<http://www.dxc.technology/>をご覧ください。

日本におけるDXC Technologyについての詳細は<http://www.dxc.technology/jp>をご覧ください。